

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/01/05

欧州の金融政策を巡る思惑も波乱要因に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	ユーロ/ドルの動向に注意 予想レンジ: 117.500 ~ 122.500 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	引き続き原油価格が焦点に 予想レンジ: 100.000~106.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

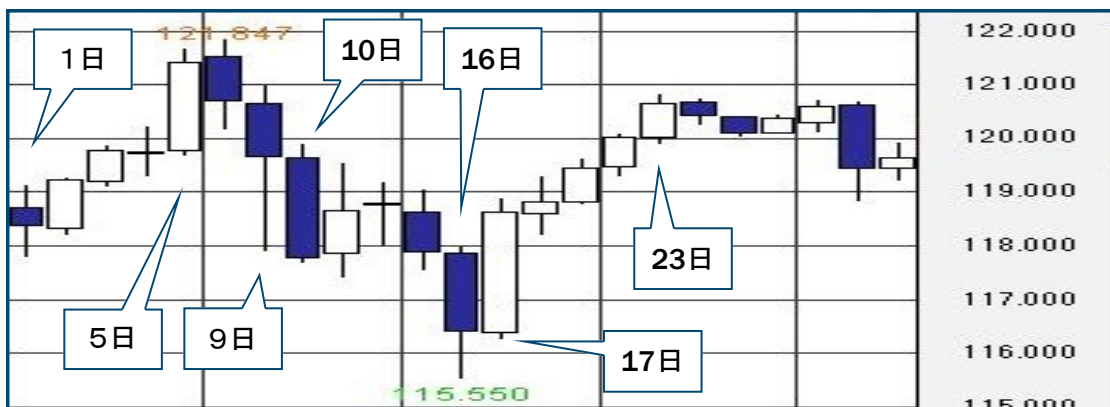
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 12月の推移

USD/JPY

12月のドル/円相場は115.550～121.847円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%と小幅な上昇(ドル高・円安)となった。

10月末からのドル高・円安の流れを引き継ぐ形で月初は上昇。米11月雇用統計の好結果も追い風となり、2007年7月以来の高水準となる121.847円まで値を伸ばした。しかし、需要減などを背景とする原油安が、いよいよ2009年5月以来の水準まで進んだ事が米国のエネルギー関連株の重石となり、リスク回避ムードに転換。ドル/円は一時115.550円まで値を沈めた。ただ、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明がバランスの取れた内容で、NYダウ平均や米長期金利が上昇すると、ドル/円も反発。なお、14日に行われた日本の衆議院選は市場予想通り与党の圧勝に終わり、市場の反応は限定的だった。



四本値

OPEN	118.728
HIGH	121.847
LOW	115.550
CLOSE	119.669

1日	格付け会社ムーディーズが本邦政府債務格付けを「Aa3」から「A1」へ1段階引き下げると発表すると、発表直後は119.134円まで円安に振れた。しかし、この発表を受けて日経平均先物が急落した事に連れてドル/円は失速。原油高を受けて相対的にドル売りが強まった事も相まって117.831円まで一時下落した。
5日	米11月雇用統計が失業率は市場予想通りの5.8%、非農業部門雇用者数は32.1万人増と市場予想(23.0万人増)を大幅に上回る結果となった。また、平均時給は前月比+0.4%と予想(+0.2%)を上回る伸びとなり、不完全雇用率は11.4%と改善(前月:11.5%)した(労働参加率は62.8%で横ばい)。総じて好結果と言える内容に、ドル/円は121円台まで上昇。週明け8日の東京市場では2007年7月以来高値となる121.847円を付けた。
9日	ギリシャのサマラス首相が大統領選出のための投票を来週実施すると発表した事で、同国の政局不安からギリシャ株が大幅に下落。これを受けてリスク回避ムードが強まると、ドル/円は117.928円まで値を下げた。ただ、その後はNYダウ平均が下げ幅を圧縮した事で切り返した。
10日	米エネルギー省(EIA)が発表した週間原油在庫が前週比+145万バレルと、市場予想(-263万バレル)に反して増加していた事などを受け、石油関連株主導でNYダウ平均が下落。これを受けてドル/円も下値を切り下げる動きが続いた。
16日	原油価格が下落していく中でリスク回避目的の円買い・外貨売りが強まると、ドル/円は115.550円まで下落。ただし、原油価格が反発するとドル/円は下げ幅を縮小した。
17日	FOMCは声明において、利上げまでの期間について「相当な期間」とする文言を維持するも、利上げ決定には「辛抱強い」アプローチが必要と表現した。同時発表の金利見通しについては、2015年末時点の予想が1.125%(前回:1.375%)へ、2016年末時点の予想が2.500%(同:2.875%)へ低下していた。これらを受けてドルは発表直後は軟化。しかし、FOMCの金利見通しの下方修正を受けてNYダウ平均が上昇すると、ドル/円も上昇転換。米債券市場では、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が「『辛抱強い』という表現は、次回数回の会合では動かない事を意味する」「数回の会合とは、2回を意味する」と発言した事を受けて早期利上げ期待から米長期金利が上昇。これもドル/円には追い風となり、ドル/円は118円台後半まで上値を伸ばした。
23日	米7-9月期GDP・確報値が前期比年率+5.0%と市場予想(+4.3%)よりも大幅に上方修正(改定値:+3.9%)すると、ドル/円は上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

米2年債利回

OPEN	0.4764%
HIGH	0.7472%
LOW	0.4527%
CLOSE	0.6645%

米10年債利回

OPEN	2.1745%
HIGH	2.3456%
LOW	2.0089%
CLOSE	2.1712%

日経平均

OPEN	17475.10
HIGH	18030.83
LOW	16672.94
CLOSE	17450.77

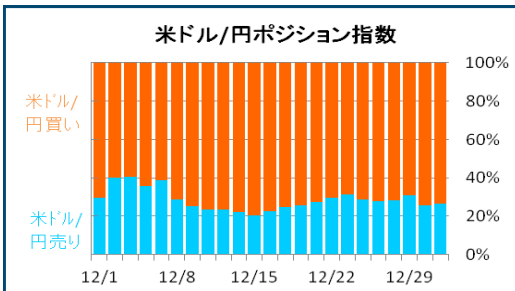
NYダウ平均

OPEN	17827.27
HIGH	18103.45
LOW	17067.59
CLOSE	17823.07

12月のポジション動向

1月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)



- ・米12月雇用統計(9日)
- ・米12月小売売上高(14日)
- ・日銀金融政策決定会合(20-21日)
- ・欧州中銀理事会(22日)
- ・日12月通関ベース貿易収支(26日)
- ・米FOMC(27-28日)
- ・米10-12月期GDP・速報値(30日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言
- ・急な円安を警戒する本邦要人発言
- ・円安を容認する本邦要人発言

1月の見通し

10月末の日本の追加緩和および年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用比率変更、そして11月の日本の消費税増税延期という大きな円売り材料を消化し、12月のドル/円相場は概ね米国の材料と、金融市場全体のリスクオン・オフのムードを見ながらの展開となった。

1月については、引き続き米国の利上げ時期を模索する相場が続くだろう。米12月雇用統計他、主要経済指標のそれぞれの結果、要人発言の内容、そして27-28日開催のFOMC声明などをそれぞれ確認しながら、利上げ時期が現在の市場のコンセンサスである「2015年半ば、早ければ6月」という見方を修正し、それに伴ってドル/円の売買を行うような流れになろう。ただ、1月のFOMCは金利・経済見通しも米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の会見もないため、大きなサプライズは期待しにくい点は留意しておきたい。日米の金融政策に対する期待の大きな変化が期待できない場合、ドル/円は主体性を持って動きにくい。方向感を見出すのに、ドル/円以外の手掛かりを求める必要があるようだ。

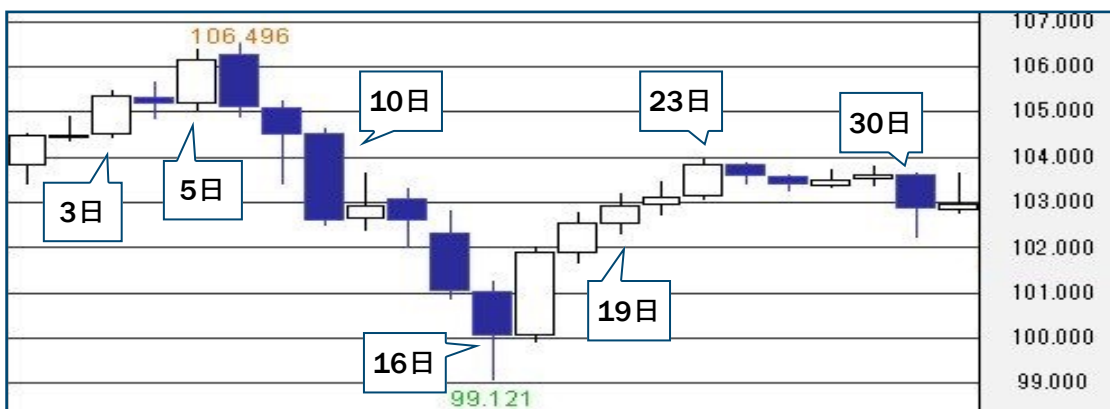
そうした手掛かりとして最も有力なのが、欧州中銀(ECB)の追加緩和に関する報道とユーロ/ドルの値動きと見る。昨年末から、ドル/円相場では欧州の追加緩和の思惑を受けたユーロ/ドル相場でのユーロ安・ドル高の進行の影響を受ける場面が散見されている。ユーロ/ドルでのドル高進行が大幅なものになれば、昨年12月に付けた高値121.847円を突破する事もあり得るため、要注意だ。(石川)

(予想レンジ: 117.500~122.500円)

カナダ/円 12月の推移

CAD/JPY

12月のカナダ/円相場は99.121～106.496円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の小幅な下落(カナダドル安・円高)となった。8日に2008年7月以来の高値となる106.496円を記録したが、原油価格の下落に拍車がかかり、ロシア危機の再来が懸念されると、わずか6営業日後の16日には99.121円まで大幅に反落した。その後、年末に向けてロシア不安が徐々に緩和すると104円目前まで反発する場面も見られたが、原油価格の下落に歯止めがかからず、テキサス産軽質油(WTI)の先物価格が5年ぶり安値を更新する中では上値が重く、102.974円で2014年の取引を終えた。



四本値

OPEN	103.867
HIGH	106.496
LOW	99.121
CLOSE	102.974

3日	カナダ中銀(BOC)は政策金利の据え置き(1.00%)を発表。同時に発表した声明で、原油安によるインフレ及び景気に対する下振れリスクを指摘しつつも「景気回復の裾野が広がる兆候が出ている」「輸出の伸びの影響が企業投資や雇用に波及し始めている」などと楽観的な見方を示した事からカナダドル買いが活発化。また、日経新聞が14日投開票の本邦衆院選に関する最新世論調査の結果、自民党が300議席、公明党が31議席を確保と報じた事がアベノミクス継続への期待感に繋がり円売りを促したため、カナダ/円は105円台へ上昇した。
5日	米11月雇用統計が予想以上の好結果となった事を受けてNYダウ平均が18000ドル目前まで上昇する中、カナダ/円は106円台に上伸。加11月雇用統計は失業率6.6%、雇用者数ネット変化1.07万人減と、予想(6.6%、±0.00万人)より弱かったが、リスク・オンの流れに傾いたため材料視されなかった。
10日	原油価格(WTI)が60ドル台に続落した事がカナダドルを圧迫。さらに資源株が主導する形で米国株が値を下げるとリスク回避の円買いが強まり、カナダ/円は102円台半ばまで大きく下落した。
16日	原油価格が55ドルを割り込んで下落する中、ロシアルーブル売りが活発化(ロシア中銀が6.5%もの大幅な利上げを発表したにも関わらず、対ドル相場が史上最安値となる79ルーブル台まで下落)。1998年のロシア危機の再来が意識されてリスク回避の動きが強まるとNYダウ平均が17060ドル台まで下落する中、カナダ/円は99.121円の安値を付けた。
19日	黒田日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見で「円安は輸出や収益の増加、株価上昇などプラス面を持つ」などと発言した事を受けて103.20円台まで上昇したが、加11消費者物価指数が前月比-0.4%、前年比+2.0%といずれも予想(-0.2%、+2.2%)を下回ると一時102.30円台まで急落した。しかし、原油相場が落ち着き、米国株が堅調に推移する中で再び騰勢を取り戻し、103円台を回復した。
23日	米7-9月期国内総生産(GDP)・確報値が改定値から大幅に上方修正された事を好感してNYダウ平均が18000ドルの舞台に乗せた。こうした中、カナダ/円は104円目前まで上昇した。
30日	前日にギリシャ議会で行われた大統領選挙において、選出に必要な票が得られず総選挙の実施が確実となった事から、同国の債務問題が再燃しかねないとの不安が広がった。これを受けて世界的に株価が下落する中、カナダ/円は終日軟調に推移し、一時102.20円台まで下値を切り下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD / JPY

加10年債利回り

OPEN	1.856%
HIGH	1.976%
LOW	1.705%
CLOSE	1.788%

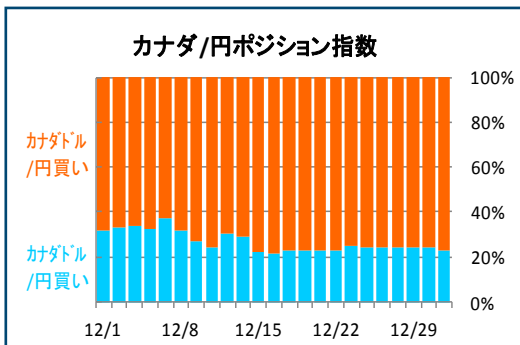
N Y 原油

OPEN	66.00
HIGH	69.54
LOW	52.44
CLOSE	53.27

NYダウ平均

OPEN	17827.27
HIGH	18103.45
LOW	17067.59
CLOSE	17823.07

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・12月加住宅着工件数(9日)
- ・12月加雇用統計(9日)
- ・日銀金融政策決定会合(20-21日)
- ・加中銀金融政策発表(21日)
- ・12月加消費者物価指数(23日)
- ・12月日本消費者物価指数(30日)
- ・11月加GDP(30日)
- ・主要国株価・国際商品価格

1月の見通し

カナダ/円の月足は、5カ月ぶりに陰線引けとなった。約6年半ぶりの高値を付けた後の反落だけに下値警戒感が漂うところではあるが、12月の足型は上ヒゲ以上に長い下ヒゲを伸ばした小陰線であり、方向感を示唆するものではなさそうだ。むしろ、強い「気迷い」を表していると思われ、もみ合い相場入りを示唆していると考えられるかもしれない。

また、ファンダメンタルズ面からも強弱感が対立しやすいと言えるだろう。原油価格の下落は産油国であるカナダにとって経済的にマイナスとなる一方、米国や日本などの先進国経済にとっては原油安のプラス面の方が大きいとされる。原油安がカナダドル安要因であることは言うまでもないが、先進国の株価を押し上げるとすればカナダドル高要因にもなり得る。

こうした中、1月のカナダ/円は原油相場と株式相場を睨んで方向感を模索する展開が見込まれるが、カナダ中銀が政策スタンスをある程度明確にすれば、方向感が現れる事も考えられる。カナダ中銀の現在の政策スタンスは、「どちらかと言えば引き締め方向に近い中立」と見られ、明確な利上げの示唆はしていない。21日に発表する声明で、前月の声明を一步進めて利上げに向けた地ならしを始めるようならカナダドル高に振れる事になりそうだ。もっとも、カナダ中銀は前月の声明で原油価格の下落による景気下押しを懸念しており、今後さらに価格が下落するようなら、カナダ景気の先行きに警戒感を強める可能性もある。その意味では、カナダドル相場は引き続き原油価格の動向がカギを握っていると言えるかもしれない。(神田)

(予想レンジ: 100.000~106.000円)